

令和7年12月提出

大船渡市議会議長 様

会派 新政同友会

会派視察報告書

視察先・視察項目

1. HOME/WORK VILLAGE (世田谷区立 旧池尻中学校)

日時：令和7年11月5日15時～16時30分

<研修テーマ> 都市部における廃校の活用について

2. 衆議院第2会館

日時：令和7年11月6日13時30分～16時

<研修テーマ> (1) エネルギーをめぐる政治動向 (資源エネルギー庁)
(2) 森林の再生について理解を深める (林野庁・消防庁)
(3) クマ被害についての課題 (衆議員議員：菊池大二郎氏)

3. 視察参加者

熊谷 昭浩
西風 雅史
今野 善信
三浦 隆
菅原 実
小松 則也



● HOME/WORK VILLAGE (1日目 世田谷区立 旧池尻中学校)

【事業目的】

旧池尻中学校を活用した拠点「HOME/WORK VILLAGE」は、世田谷区内の既存産業に対する伴奏型支援を行うことで、新しい価値を見出す産業のイノベーションを創出・加速させることを目的とし、令和7年7月、本事業がスタートした。

【基本コンセプト】

- ① 多様な企業・人材が新たな価値を創造する場
- ② 未来を担う子供への新たな学びを实践する場
- ③ 職住近接のため多様な働き方の支援拠点
- ④ 地域の特性を生かした賑わいをつなぐ場

【具体的な機能】

① 飲食・物販、スモールオフィス

施設には、30区画程度の飲食や物販区画がある。スモールオフィスも存在する。入居者同士の打ち合わせ、交流会、イベント等、数多くのコミュニケーションを生み出している。

② 常設の学び舎

小学生を中心にスクール事業の展開や、常時自由に使える学びのスペースを提供することで、幼児か

ら小学生まで、幅広い子ども、大人に学びの場を提供している。

③ 校庭（広場）

施設に賑わいを創出するとともに、キッチンカーやマルシェ出店により、事業者の出店機会を提供する。世田谷パン祭りをはじめとする広場活用の新しい切り口の提案や事業者の集積も図っていく。また、体育館、ランニングステーション、スタジオの貸出やスポーツやエクササイズ、格闘技、文化活動としての拠点として提供する。

【実践例】

事業名	地域連携イベント開催
事業内容	施設内広場（校庭）等で世田谷パン祭りのような地域連携イベントを開催し、地域との一体感を醸成する。
目標値	イベント開催回数 R7(2回)、R8(4回)、R9(6回)、R10(8回)
実施事業	まちの賑わいを創出するイベントを定期的で開催する。



【Q&A】

Q：当事業所は、経済面ではどのように運営されていますか。

A：区は、事業内容や施設管理の監督を行っているが、経営面においては、「方方（株）」と「小田急電鉄（株）」が実務を監督している。また、経営や運営の状態においては、運営委員会・評価委員会が運営内容や評価について、管理監督を行っている。経営は100%、民間運営である。

5.感想・謝辞

多少の生徒の減少があり、近くにあった同規模の中学校と統合した。そして、空いた旧中学校を100%、いやそれ以上に効率的に再利用している。HOME/WORK VILLAGEの事業は多彩であり、どの事業も順調に推移している。さらに発展も期待できる。人口が集中する都市部、上昇気運に満ちた都市部がゆえになせる業であると実感した。その都会のエキスを本市のどの部分に注入できるかは不明だが、意識化を図っていきたいと思った。

本事業の管理監督者である世田谷区役所の佐藤智和氏、斎藤惇氏には、資料を準備いただいたり懇切丁寧にご説明いただいたり、頭が下がる思いであった。心より感謝申し上げます。

● 講話（2日目）

<研修テーマ>（1）エネルギーをめぐる政治動向（資源エネルギー庁）

- ◆ 国内の電力需要が20年ぶりに増加していく見通し。大規模な電源投資が必要な時代に突入。脱炭素電源の供給力を抜本的に強化しなければならない。再生可能エネルギーか原子力かという議論ではない。脱炭素エネルギーを最大限活用すべき。再エネについては、「地域の共生」「国民負担の抑制」「使用済み太陽光パネル処理」等々の課題も多い。
- ◆ 再生可能エネルギー導入に当たっては、①地域の共生、②国民負担の抑制、③出力変動への対

応、④イノベーションの加速とサプライチェーンの構築、⑤使用済み太陽光パネルへの対応の課題等を克服しなければならない。

【Q&A】

Q：「地域の共生」において、注意すべきところは、どういうところですか。

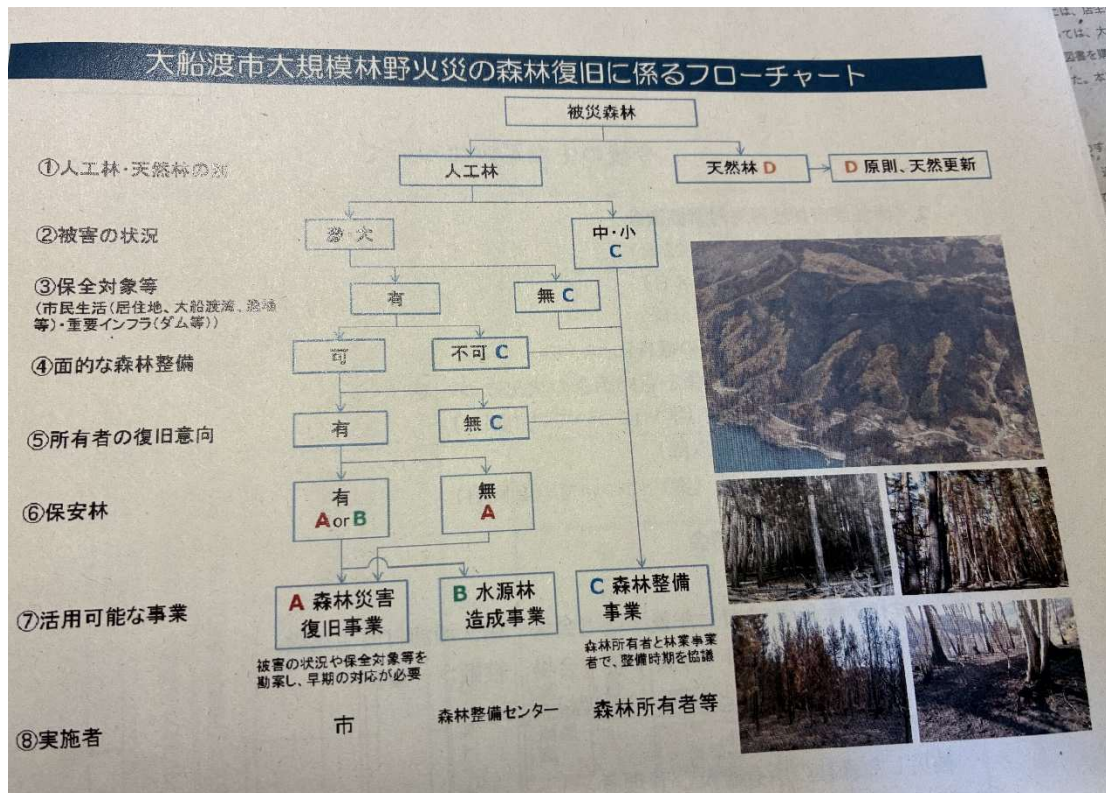
A：新エネルギー政策を所管する自然エネルギー省、環境省、自治体の関係法令など、緊密な連携が必要であり、特にも地元の合意は欠かせない。

<研究テーマ> (2) 森林の再生について理解を深める (林野庁・消防庁)

◆ 森林災害復旧事業に係る事務手続きの経過

- ・ 4月24日 計画概要提出 (市→県)
- ・ 4月25日 計画概要提出 (県→国)
- ・ 4月30日 林地再生対策協議会設置
- ・ 5月8日 被害調査開始
- ・ 5月下旬～ 私有林所有者の意向調査事務開始
- ・ 6月25日 計画概要書提出 (市→県)
- ・ 6月30日 計画概要書提出 (県→国)
- ・ 7月14日 国による第1回災害査定の実施

◆ 大船渡市大規模林野火災の森林復旧に係るフローチャート。被害面積約3,400haである。フローチャートを用い、分類や流れを図解することにより、状況を整理し、被災森林全体の復旧の方向性を検討する。



【Q&A】

Q：調査が長引き、ゴールが見えないのが不安になっている。今後の見通しはどうか。

A：年末までには、一定の結論を出したいと考えている。焼けた木はどうか、利用の仕方についても同時進行で考えている。

2. 感想・謝辞

忙しい中、資料を準備いただき、懇切丁寧に説明頂いた。市、県、国が一体となって動いているので安堵した。時間はかかっても、森林再生に向かって一步一步進むものと思われる。経済産業省自然エネルギー庁 末政憲司氏、林野庁 酒井俊英氏、田ノ上真司氏、消防庁 広富将司氏には、心より感謝申し上げます。

3. 衆議院議員：菊池大二郎氏との面談

山形県村山市出身。東北地方の発展・地域創生に対する熱い思いがある。国土交通常任委員会委員、地域活性化・子ども政策・デジタル社会形成に関わる特別委員会理事。国民民主党役員。



<研修テーマ> (3) クマ被害についての課題

クマ被害対策に対する緊急要望書を木原内閣官房長官に提出。緊急銃猟体制の強化はもちろんのこと、河川周辺のヤブの刈り払いや子どもを取り巻く環境への支援を個別に要請した。

4. 感想・謝辞

大船渡市大規模林野火災に際しては、現地調査に入っただけではない。気さくで親しみやすく意見交流を活発に行うことができた。秘書の今岡氏にも、受け入れ対応で大変お世話になり、感謝申し上げます。

【戸越銀座商店街】

戸越銀座商店街は、全長約 1.3 kmで関東有数の長さをほこる。約 400 軒の飲食店が連なり、東京を代表する食べ歩き商店街である。飲食店はもちろんだが、リノベやインテリアなどの専門店も多い。

1923 年の関東大震災後に銀座から譲り受けたレンガで舗装したことから、全国で初めて「〇〇銀座」という名称になった。

